日本建築学会大会学術講演梗概集
（九州） 2025 年 9 月

イクソンドンの地区単位計画が転用韓屋の外観特性に与える影響 その 2：外観特性による類型化と考察

正会員 ○長津咲希[*1] 正会員 籔谷祐介[*2]
正会員 森豪大[*3] 正会員 宋俊煥[*4]

コンバージョン 景観 都市計画
保全 歴史的建造物 韓国

1. 研究の背景と目的

前編（その 1）では、イクソンドンの地区単位計画の特性について述べた。本編（その 2）では、イクソンドンの転用韓屋の外観特性を整理し類型化する。それにより地区単位計画が外観特性に与えている影響について考察することを目的とする。

2. 分析方法

2-1. 研究対象とする韓屋の選定基準

転用韓屋の外観特性について分析するため、イクソンドンの地区単位計画区域内にあるすべての転用韓屋の外観写真を撮影した。住宅以外の営業中の韓屋で、①外から見た時に垂木や柱など韓屋の構造が残っているもの、②瓦屋根のもの、③庭の上部仕上げが開放・透明または半透明のもの、④内部に垂木が見えるもののうち 1 つでも当てはまる場合を転用韓屋として撮影を行った。韓屋の正面から撮影をし、道幅の都合上画角に収まらなかった場合は別の角度からも撮影した。研究対象の韓屋として 84 件のサンプルが得られた。

2-2. カテゴリーの選出

韓屋の外観特性の評価軸を抽出するために多重対応分析を行う。まず、多重対応分析を行うために必要なカテゴリーの選出を行った。カテゴリーとは、本研究で外観特性として扱う韓屋の構造や外壁、看板や照明などの項目のことである。韓屋の外観を構成する要素として外壁やドアの素材、装飾の数なども重要であると判断したため、地区単位計画 [1)]に加えて既往研究 [2)]と KJ 法を用いてカテゴリーを選出した。分析に用いる評価項目として地区単位計画からは「韓屋の形及び外観に関する決定」（34-36 ページ）を参照した。既往研究は Woo らの研究 [2)]を参考に、「韓屋リノベーションのタイプ分類」より項目を抜き出した。KJ 法では外観を分類する際に基準とした要素を抽出した。

3. イクソンドンの転用韓屋の外観特性

3-1. 評価軸の抽出と類型化

鈴木らの研究 [3)]に倣い、多重対応分析を用いてイクソンドンの転用韓屋を、外観特性の評価軸を抽出した。その結果、第一軸〈装飾性-非装飾性〉（寄与率:9.7%）、第 2 軸〈改変的-原型的〉（寄与率:8.1%）の 2 つの軸を抽出した。多重対応分析で得られた第 1 軸と第 2 軸のオブジェクトスコアを用いてクラスター分析を行い、外観特性によるイクソンドンの転用韓屋の類型化を行った。

3-2. 各類型の特徴と地区単位計画の遵守事項

各類型の特徴を整理し、分類された韓屋が地区単位計画をどの程度遵守しており、その影響をどのように受けているかを明らかにする（表 1）。

(1) 類型 1：伝統考慮型(n=38)

代表的な評価項目として、「ドア現存」、「庭上部透明・半透明」、「外部付属物なし」、「光源露出なし」が確認された。屋根や構造の一部に非遵守事項が確認されたものの、規制項目の多くを遵守している韓屋が多いため「伝統考慮型」とした。

(2) 類型 2：外壁個性型(n=22)

代表的な評価項目として、「外壁原色系列」、「主な外壁素材コンクリート・金属・瓦」、「光源原色系列」が確認された。外壁や照明に原色が使われていたり、外壁の素材にコンクリートなどの変わった素材が使われたりしており、外壁が個性的な韓屋が多いため、「外壁個性型」とした。

(3) 類型 3：装飾型(n=6)

代表的な評価項目として、「装飾の数 9 以上 11 以下」が確認された。装飾はメニューが書かれたポスターなどを指す。したがって、「装飾型」とした。類型 3 は類型 1 に次いで遵守事項が多い類型であった。

(4) 類型 4：伝統保全型(n=14)

代表的な評価項目として、「素焼き瓦」、「主な外壁材料木材」、「庭上部開放」、「装飾の数 2 以下」が確認された。瓦や庭などに手が加えられておらず韓屋が元の形を保ち、装飾の数も少ないことから「伝統保全型」とした。

(5) 類型 5：装飾看板型(n=4)

代表的な評価項目として、「看板面積が外壁面積の 1/12 より大きい」、「看板が柱で分断されたマスを超えている」「看板が屋根を覆っている」、「看板が軒線を超えている」「看板の数 3 以上」が確認された。地区単位計画の看板に関する規制項目を全て遵守していない類型であり、「装飾看板型」と名前をつけた。

The impact of the Ikseondong district unit plan on the external appearance characteristics of converted hanok houses
Part2: Categorization and consideration based on external appearance characteristics

NAGATSU Saki, YABUTANI Yusuke,
MORI Godai, SONG Junhwan

3-3. 各類型の分布

各類型の分布を図 1 に示す。分布を見ると、伝統考慮型・伝統保全型はまとまった場所に群をなして分布していることが明らかとなった。伝統的な韓屋が存在すると、その周辺も同様の外観で保全され、景観保全への意識が働きやすいと考えられる。また、装飾型・看板装飾型は強い規制がかかる韓屋保存区域[注 1)]の外側に多く分布しているため、地区単位計画の規制項目が遵守されていないことが明らかとなった。

3-4. 総合考察

遵守事項が最も多く確認されたのは「伝統考慮型」であり、瓦や垂木などの構造や外部付属物に関する項目をよく守っていた。この類型は、伝統的な要素を残しながらも、商業的な利用を実現していると言える。一方で、「外壁個性型」は外壁や照明にカラフルな要素が多く、7 項目で違反が確認された。見た目の印象はおしゃれで目立つものの、伝統的な韓屋の美しさが損なわれている異例も多く見られた。「装飾型」は、件数は少ないが、地区単位計画は比較的よく守られていた。「伝統保全型」では、庭の開放や瓦の使用など、韓屋らしい外観を保つ項目がよく遵守されていたが、夜間照明や外部設備の一部で非遵守項目があった。「装飾看板型」は最も件数が少なく、看板や照明での非遵守項目が多く、商業性が強く表れた類型であった。特に屋根や軒下が看板で隠れている例が見られた。

項目別に見ると、外壁や構造に関する項目は比較的よく守られていたが、庭上部の閉鎖や外部付属物、照明の光源露出などの項目では多くの違反が見られた。特に、イクソンドンでは商業空間の確保するため庭の内部転用が進んでおり、それに伴って庭の景観や構造が損なわれる傾向がある。また、塀が残っていない韓屋が多いため、外部付属物が露出しやすく、設計者や店主の意識の違いも違反の要因となっている。

4. まとめ

本研究では、イクソンドンに存在する転用韓屋の外観特性を類型化し、地区単位計画が外観特性にどのような影響を与えるかを明らかにした。伝統考慮型や伝統保全型では計画をよく遵守しており、伝統性と商業性のバランスが取れていることが確認された。一方、外壁個性型や装飾看板型では外壁や照明、看板における違反が多く、商業的意匠が優先されている傾向が見られた。特に、庭の内部転用や外部付属物の露出、光源の扱いが課題となっており、今後さらに景観と調和する工夫が求められる。伝統的な構造を維持しつつ、現代のニーズとバランスをとることが、イクソンドンの持続的な発展において重要であると考えられる。

表 1 各類型の地区単位計画との比較

大分類	地区単位計画規制項目	伝統考慮型 (n=38)	外壁個性型 (n=22)	装飾型 (n=6)	伝統保全型 (n=14)	装飾看板型 (n=4)
屋根	瓦	×	?	○	◎	○
	垂木	○	×	○	○	○
構造	真壁	×	×	○	○	○
外壁	土俗主義的材料	○	○	○	○	○
	外壁の色	○	×	○	○	○
	構造遮蔽	○	○	○	○	×
庭	庭上部	○	×	×	◎	×
外部設備	外部付属物	◎	×	×	×	×
屋外広告物	看板面積	○	○	○	○	×
	看板大きさ	○	○	○	○	×
	看板遮蔽	○	○	○	○	×
	看板超過	○	○	○	○	×
	看板の数	○	○	○	○	×
夜間照明	動く発光広告物	○	○	○	×	○
	照明方式	○	○	○	×	○
	光源の色	○	×	○	○	○
	光源露出	○	×	×	×	×
	光の動き	○	○	○	×	×
遵守事項数		16	10	15	13	8

凡例：◎…よく遵守している，○…遵守している，×…非遵守，？…判別不可

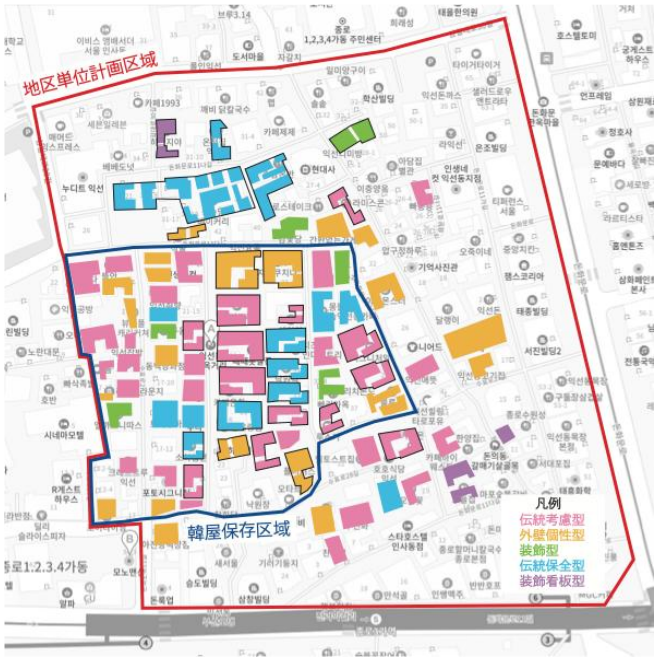

図 1 各類型の分布

【注】

注 1) 韓屋保存区域とは、韓屋密集地域の中で韓屋の保全と新興が必要と認められ、地区単位計画により韓屋のみの建築のみが許可され、高さなどが規制されることで、韓屋村の景観を守る区域である。

【参考文献】

1)도시계획포털「지구단위계획」https://urban.seoul.go.kr/view/html/m/PMNU3030000000（最終閲覧日：2025/1/29）
2)우소진，김용성，송석재（2022）익선동 한옥의 외부형태 리노베이션 구성요소 분석을 통한 가로환경 변화에 관한 연구，한국공간디자인학회논문집，제 17 권 8 호 통권 85 호 p.213-226
3)鈴木裕子，山本直彦，吉田哲也（2023）「修景に向けた民家の外観意匠類型化手法と景観評価 奈良県桜井市大神神社参道地区と三輪地区を中心対象として」『日本建築学会計画系論文集』第 88 巻 第 812 号 p. 2751-2761

*1 三菱地所コミュニティ
*2 富山大学学術研究部芸術文化学系 講師
*3 富山大学理工学研究科博士後期課程
*4 山口大学 大学院創成科学研究科 教授

*1 Mitsubishi Jisho Community
*2 Junior Professor, Faculty of Art and Design, University of Toyama
*3 Ph.D student, Grad. School of Sci. and Eng., Univ. of Toyama
*4 Prof., Grad. Sch. of Sci. & Tech. for Innovation, Yamaguchi Univ.